

## 2つの大学を行き来して

自治医科大学地域医療学センター兼耳鼻咽喉科学教室 准教授

金澤 丈治 (6期生)



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、この度自治医科大学地域医療学センター地域医療支援部門兼耳鼻咽喉科学教室准教授を拝命いたしました6期生の金澤です。

ご無沙汰しております。この度は、同窓会報誌に寄稿の機会を頂きまして大変嬉しく思います。私は大学卒業後、野田寛教授が主宰する耳鼻咽喉科学教室に入局しましたが、事情もあり自治医科大学に移り後期研修を行いました。自治医科大学は卒業生が各都道府県に帰ってしまうこともあり、慢性的な人手不足でとても忙しく耳鼻咽喉科のプライマリーケアを十分に学ぶことができませんでした。また、自治医大は、僻地に医師を派遣する大学とのイメージが強いのと思いますが、基礎部門は北関東でも有数の研究室を持ち血液疾患を中心に多くの優れた業績を上げています。頭頸部癌は、手術を中心に放射線や化学療法が行われておりますが治療成績は十分ではありません。以前より現状の治療に限界を感じておりましたので、専門医習得後は大学院に進学し、小澤敬也教授の研究室で頭頸部癌遺伝子治療の基礎研究を行いました。遺伝子治療が頭頸部癌の新たな治療戦略となりうるかどうかは今後の課題ですが、この大学院での経験が私の以降の方向性を決定したことは事実です。大学院卒業後は、思いがけないことに琉球大学に講師として呼んで頂き卒前・卒後教育に携わることができました。大学院卒業直後のこのような経験は大変貴重ではありましたが、同時に自身の力不足を実感した時期でもあります。その後、機会

があり米国ミシガン大学に留学する機会を得て頭頸部癌における Galanin 受容体の役割について研究し新知見を得ることができました。この研究は現在の続けている私のライフワークです。帰国後は、自治医科大学の市村恵一教授のお誘いもあり、自治医科大学さいたま医療センターで臨床三昧の生活を行いました。母校を離れてしまうと感じるのは同窓生の絆の強さです。これまでこの病院では頭頸部癌は扱っておらずゼロからの出発でしたが、不明なことがある度に近隣の施設に見学に出かけました。この過程で、癌研有明病院の福島先生や東京医科歯科大学の得丸先生、日赤医療センターの滝沢先生など多くの同窓生と交流をもつことができました。更に、同じ職場の麻酔科の大塚先生や放射線科の角田先生などにもいろいろ助けて頂きました。

このようにこれまで、2つの大学を行き来してきましたが、ここで得られた同窓生との交流は今も続いていて私の研究・臨床と大きく支えてくれています。現在は琉大の鈴木教授の御厚意により上原貴行先生を派遣して頂き、私の研究を手伝って頂いております。また、今年から琉球大学の非常勤講師にもさせて頂き今後も母校との関係は続きそうです。これからも母校との交流を大切にしていきたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして挨拶といたします。